

2010年10月29日

日本現象学・社会科学会報 第81号

日本現象学・社会科学会 事務局
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2
群馬大学社会情報学部
砂川(比較文化基礎論)研究室内
Tel/Fax: 027-220-7437(直通)
E-mail: 事務局<info@jspss.org>
ホームページ: <http://www.jspss.org/>

1. 第27回年次大会(2010年度)について

2010年度年次大会(第27回)を、来る2010年12月4日(土)、5(日)の両日にわたり、浜渦辰二会員を世話人として大阪大学豊中キャンパスにおいて開催いたします。会員各位をはじめ、多数の皆様のご参加をお願い申し上げます。

【会場のご案内】

会場：大阪大学豊中キャンパス

所在地：〒560-8532 豊中市待兼山町1番5号

* 豊中キャンパスマップ <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka.html>

大会会場：「文系総合新棟」

3階「L3」(研究発表会場)、同「L4」(会員控え室)、5階「セミナー室1」(委員会室)

* 豊中キャンパスマップの中の「38. DonDon(レストラン)」の右側に見える高い建物です。

交通：アクセスマップ <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/accessmap.html>

* 最寄り駅からの移動手段など

- 1) 新大阪駅からJR神戸線に乗り換えて大阪駅まで行き(5分くらい)、阪急梅田駅まで歩き(5分くらい)そこから阪急宝塚線に乗り石橋駅で下車(急行に乗れば17分くらい)、そこから徒歩で会場まで(歩いて15分くらい)。合計50分程度。
- 2) 新大阪駅から地下鉄の新大阪駅まで歩き(5分くらい)、地下鉄御堂筋線(=北大阪急行線)に乗り千里中央駅(終点)で下車(13分くらい)、そこからモノレール千里中央駅まで歩き(10分くらい)、そこからモノレールに乗って柴原駅で下車(7分くらい)、そこから徒歩で会場まで(歩いて15分くらい)。合計1時間程度。
- 3) 飛行機で伊丹空港に来られる場合：空港を降りたらすぐにモノレールの接続駅がありますので(歩いて3分)、そこからモノレールに乗って柴原駅で下車(7分くらい)。あとは、前述の2)に合流。
- 4) 自家用車で来られる場合：豊中キャンパスの正門からお入りください。守衛さんに、学会参加のために来たと言っただけであれば、入構チケットを受け取って、帰りにまた守衛さんに渡していただければ、土・日は駐車料金無料です。駐車場はあちこちにありますので、案内板などを頼りにお探しくください。

【会場近辺のホテルのご案内】

楽天トラベルのホームページ <http://travel.rakuten.co.jp/business/> などで検索頂いた方が早いかなと思います。目標としては、「大阪北部」の「石橋駅周辺」か、石橋駅から乗る阪急宝塚線 <http://rail.hankyu.co.jp/station/> 沿線のホテルを探されるのが便利かなと思います。

【懇親会場のご案内】

「楽楽キッチンえびす 石橋店」 <http://gourmet.walkerplus.com/167083440002/>

同ページの「クーポン・地図」を辿って地図をご覧くださいいただければ場所が分かりますが、大会会場から歩いて15～20分くらいかなと思います。また、「店内・トピックス」を辿っていただくと、「店内を見る」の左下の写真に30名収容可能な会場の写真がありますが、ここを予約しました。(2500円/1人で2時間飲み放題。追加分を見込んで、会費は4000円/1人程度を予定。)

2. 「一般報告」、「土曜企画」及び「日曜企画」について

今回も「一般報告」、「土曜企画」及び「日曜企画」を軸にして、番外のディスカッションや情報交換の場としての「懇親会」で、大会が構成されます。具体的なプログラムは次の会報(11月半ばに発行予定)でお知らせする予定ですが、「土曜企画」及び「日曜企画」については、以下のような趣旨で企画が進行中です。ご期待ください。

【土曜企画】「ハンセン病を巡って——排除・抵抗・アイデンティフィケーション」

【簡略版企画趣旨】

戦前から現代にいたるハンセン病患者達の歩みは、マジョリティとなる共同体や国家から付与された「スティグマ (Stigma)」に対する受容・抵抗・闘争のプロセスによって彩られている。ハンセン病患者達の承認を求める闘争は、自らの生活世界に加えられる他者からの不当な暴力と否定的な自己像に抗して、解放的かつ肯定的な自己像を獲得しようとするプロセスであった。

そのプロセスは、実証的な社会科学と現象学・解釈学・コミュニケーション論などの理論研究が交わる領域において重要な問題を提起していると考えられる。このような認識のもと、本シンポジウムでは、「排除」「抵抗」「アイデンティフィケーション」などをキーワードにハンセン病が提示する社会的・理論的諸問題を検討する。

【報告者 (五十音順)】

荒裕樹(日本学術振興会特別研究員、中央大学)、坂勝彦(東日本国際大学)、中村文哉(山口県立大学)

【司会】

郭基煥(東北学院大学)

【日曜企画】「現象学の解釈学的展開」再考

【簡略版企画趣旨】

日曜企画として行なわれる大会シンポジウムでは、20世紀の重要な思想潮流としての「現象学の解釈学的展開」の今日的意義と射程について再検討する。従来認識論的・存在論的関心から語られることの多かったフッサール現象学を倫理・実践哲学的な文脈で再考する動きが広がり、それにともなって現象学一般の倫理・実践哲学的探求が活発になっている現在、ハイデガー以降の「現象学の解釈学的展開」において探究され続けている問題系に、あらためて真摯に取り組むことが、喫緊の課題となると思われる

るからである。

シンポジウムの前半では、ハイデガー研究者の村井氏、ガダマー研究者の巻田氏、リクール研究者の杉村氏に提題報告を行なっていただく。シンポジウム後半では、この提題報告を踏まえて、とりわけ「歴史性」や「生活世界」等のテーマについても活発な議論が展開されることが期待される。

【報告者（五十音順）】

杉村靖彦氏（京都大学）、巻田悦郎氏（東京理科大学）、村井則夫氏（明星大学）

【司会】

水谷雅彦（京都大学）、河野憲一（早稲田大学）

【一般報告で報告される皆様へ】

配布資料は 40 部程度、各自でご用意頂きますようお願い致します。また、パワーポイントなどをお使いの方はその旨の可能性について事務局までお問い合わせ下さい。会場校と可能性について相談したいと思います。

3. 会費納入のお願い

今年度の会費の納入をお願いいたします。払込用紙を同封させていただきましたので、郵便振替にてご納入いただきますようお願いいたします。なお、過年度分に未納のある方には、あわせてご請求させていただきます。また、2010年度以降の会費を既に納入されている場合は今回の請求はありません。

* 年会費は、一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円となっております。

* 新入会員の方は会費とともに入会費（一般会員 1,000 円、学生会員 5,00 円）もあわせてご請求させていただきます。

* 郵便振替口座： 00920-2-56364 （加入者名：日本現象学・社会科学会）

今年度は事務局の作業の遅れで「会費納入のお願い」が遅くなってしまいました。その上でのお願いで恐縮ですが、できるだけ11月中旬までに振り込んでいただけますと幸いです。ご協力をよろしくお願い致します。

♥ 事務局からのお願い

会員の方で住所変更があったため会報が返送されてきた方がいらっしゃいます。事務局で確認できた方もいらっしゃいますが、以下の方々はメールアドレスも含めて確認できていません。もし連絡先をご存知の方がいらっしゃいましたら事務局までご一報をお願いします。

（敬称略） ※省略

以上